

「生活の中で日本語力を伸ばす」

皆さんは日本で生活しています。日常生活の中では、空気と同じようにいつも日本語が聞こえ、意識しないうちに日本語で話しています。英語のように苦勞をしなくても読んだり書いたりする能力は身に着いていると思います。しかし、自然に身に着いたと思っている今の日本語力ですが、「何かもの足りない」「十分に意思が伝わらない」「難しい話は苦手だ」「社会に出て大丈夫だろうか」などと不安を感じている人はいませんか。

ここでは、「本はほとんど読んだことがない、新聞はとっていない、辞書も引いたことがない」など、今までの不勉強はとりあえずおいておき、話を進めます。これからの長い人生を豊かに過ごすために、一緒に自分の日本語力を伸ばす方策（意味わかりますか？）を考えてみましょう。

大学は社会で生きていくために必要な能力や専門知識を獲得する場です。その知識や能力を得るための道具として第一に必要なものは、まず「ことば」つまり日本語です。もちろんこれからの国際社会を生き抜くためには英語や外国語も必要です。しかし、ものごとを順序立てて論理的に考えるための母語（皆さんにとっては日本語）の力がなければ、英語の力が日本語力以上に伸びることはありません。

皆さんはだれとでも日本語で話せば通じるし、不自由を感じたことがないのに、どうして今さら日本語を勉強しなければならないのかとを感じる人はいますか。たとえ勉強しようと思ったとしても何から手をつければ良いかわからないと人もいるでしょう。確かに日本語の膨大（読めましたか？）なことばや表現の全てを魔法のように短時間で身につける方法は残念ながらありません。皆さんの中には、漢字の勉強を一生懸命にしている人もいるでしょう。日本語関係の検定試験を受けている人もいるかもしれません。でも、漢字だけを知っていても、テストの点数だけとっても、「説明する・説明する文章を作る」などの実際の場面で正しく使えなければ意味がありません。「ことば」はコミュニケーションの道具であり、上達のこつは、実際に触れて使うことです。

皆さんが友達と話をしたり、メールを書いたりする日本語（これを生活言語といいます）だけでは、仕事をする上での日本語力として充分とは言えません。より深い知識を得たり、考えたり、伝えたりするために必要な日本語（これを学習言語といいます）が、皆さんにとってより重要です。このような日本語は、聞いたり、話したりするだけでは上達しません。読んだり、書いたりすることが重要です。日本語社会の中では、外国語の学習のように時間やお金をかけなくても工夫する手立て（別のことばで言うと？）はいくらでもあります。学生のうちに読んだほうが良い本の大部分は町や大学の図書館にあるでしょう。新聞だって週刊誌だって図書館にあります。無料で読めます。ただ、これまでそれらの本や新聞に触れる機会も、さらに興味もなかった学生さんもいることでしょう。ここでは、生活の中で自然に身につく「おもしろい・わかりやすい」日本語の学習について考えてみましょう。そしてこれからは、意識して日本語を学んでいきましょう。

(1) 新聞・雑誌

皆さんの家に新聞はありますか。新聞は「知識・ことば」の宝です。まず家にある新聞を手にとって開いてください。残念ながら家に新聞のない人は、駅で新聞を一紙買ってみてください。140円ぐらいの出費になります。そして興味のある見出しを見つけてください。もちろん、記事の内容を読んでみましょう。予算に余裕があったら、2, 3紙同じ日の違う新聞を買ってみましょう。そして、並べて比較してみてください。同じ記事があったら、その記事がどのページにあったか、どのぐらいの大きさの記事だったか、文章のニュアンスに違いがあるかなどを比較しましょう。一般紙やスポーツ紙での扱いについては違いが分かりやすいはずですが、書いた記者がどれぐらい力を入れて取材したかも紙面を比較・分析すればわかります。身近な事件や事故だとさらに気がつくことが多いでしょう。何が書いてあって何が書いていないのか、慎重に読んでみましょう。例えば2004年の沖縄、普天間基地のヘリコプターが国際大学に墜落、炎上した事故がありました。この事故を間近で体験した大学の学生は、この事故を伝えるニュースについて「記事にはなっていない内容」が多いことに気づいたそうです。皆さんの地域や大学や知人など、周りの出来事が何かニュースになったことはありませんか。新聞でどう扱われたか調べたことがありますか。

さらにネットでの記事では同じニュースの扱いがどのように違うのか、どのような情報が抜けているのか、また、書いた記者の目・見方がどのように違うのかを見破ることができるようなれば一流です。新聞記事の中に「知らないことば」を発見したら、あなたにとって「大発見」です。新聞ではよく慣用句が使われていますし、難しい漢字もよく見かけます。忘れないうちに辞書で調べましょう。「今さら聞けない」ことばをそっと自分のものにするチャンスです。

(2) 辞書

日本語の辞書は持っていますか。電子辞書とか携帯やパソコンの辞書を使っている人もいますね。持っていても使っていなければ「宝の持ち腐れ（意味わかりますか?）」です。辞書はさまざまな知識を与えてくれる「宝の山」です。英語ならいざしらず、日本語の辞書なんてこれまで必要なかったと言う人もいるかもしれません。それは、あまり難しい本や記事を読んでこなかった証拠なのです。「ちょっとやばい」と思ってください。実際文章のプロと言われる人、作家や大学教員たちは、むしろ辞書を手離しません。新しく知らない言葉を調べるだけでなく、知っているつもりのことばの正確な意味や別の意味を知るためにも役に立ちます。辞書に載っている一つめの意味だけで安心しないでください。一つのことばでもたくさんの意味があるのが普通です。辞書を引いた時は語彙力、すなわち日本語力を高めるチャンスです。辞書の説明を読むと、辞書を作った人の苦勞がわかります。例えば「右」はどう説明しますか。実際に辞書を引いてみましょう。「東に向いたとき南にあたる方。大部分の人が食事のとき箸（読めますよね?）を持つ側（大辞泉）」とか、「正面を南に向けたときの西に当たる側。人体で通常心臓のある方と反対の側（小学館，現代国語例解辞典）」、「北に向いたとき東にあたる方（三省堂，例解新国語辞典）」など辞書によっても違いますし、右にはもっといろいろな意味があることがわかるでしょう。では「左」はどうでしょうね。「右の反対の側」というのがあるかもしれません。辞書には例文も載っています。忘れずにチェックしておくことで、使い方も知ることができます。辞書をいくつも比較したり、辞書に載っていないことばを捜したりすることを趣味にしてみてもいいですか。

(3) ネット検索

もちろん皆さんはパソコンユーザでしょう。もし使っていない人でも今は携帯でもネット検索ができますから、使ったことはあるでしょう。

ネット検索ははじめて聞いたことばや表現を知るのに、とても便利な手段です。しかももう一つの利点は意味だけでなく、それに関連する文章ごと検索できるので、そのことばの使い方を知るのによい練習となります。その説明の中にさらにわからないことばが出てきたらまた調べるという芋づる式（意味はわかりますか？）楽しみも手軽にできますね。

ことばを調べると反対に、意味はわかるのだけれど、それにぴったりのことばを忘れてしまったなどという場合、適切な検索語は何か、いくつ入れたら探していたことばに行き着くか、友人と競争してみてもおもしろいですよ。適切な検索語なら、少ない語彙数でもすぐ探せるのに、適切でないと、語彙数を増やしても探せないということもわかるでしょう。例えば、「年齢を重ねれば重ねるほど時間がはやく過ぎるように感じる」ということを聞いたことはありますか。実際この現象には法則名がついています。どういう検索語を使うと調べられるでしょうか。やってみてください。できるだけ少ない語彙数で調べられるといいですね。ちなみに、この法則で計算すると、人生の長さを感じる折り返し点は20歳だそうです。これからの皆さんの人生もどんどん短く感じるようになるでしょう……

(4) 授業中の教員のことば

大学の授業はどんな感じですか。高校の時と違いますか。何が違いますか。今の学生が知らないことばに出会う場所で一番多いのは「授業・教科書・参考書」との私たちの調査があります。知らないことを恐れる必要はありません。あなただけではないのです。知らないことばを見つけた時、どうすれば良いでしょうか。まず本を読む？辞書を引く？ネットで調べる？もちろんどれも素晴らしい方法です。もっと手っ取り早く解決する方法もあります。友達に聞く？授業中はちょっと迷惑かもしれませんが、先生に聞く？これもいい方法です。

最近パワーポイントで授業をする先生も多く、聞き取れない、わからないまま、ことばが通り過ぎてしまうことがありますか。こういう場合、せっかく授業料を払っているのですから先生を大いに活用しましょう。大勢のクラスメートの前で先生に質問するのは非常に勇気のいることですよね。しかも自分の質問することが先生や他の学生にとってばかばかしいのではと感じたら、なかなか質問しにくいでしょう。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」ということばを知っていますか。わからないと思ったその時に「解決」することが目に見えない力になります。学生の時は失敗が許される時期です。むしろたくさん失敗して大きく学ぶいい機会なのです。社会に出てからの失敗は損失を伴うこともあります。しかも誰も簡単に教えてはくれません。この失敗して学ぶことが推奨（読めますか？）されている貴重な時期に、質問し「一瞬の恥」をかいて問題を解決しておきましょう。だまって「知らないこと」に蓋（読めますか？）をするより、「質問魔」になったほうが、長い目で見たら得です。社会に出る前がチャンスなのです。

(5) 教科書

授業では、話がどんどん過ぎてしまって、何がわからなかったのかが、わからないという状態になることもあるでしょう。こういう場合は、先生に質問もできない、つまり、何から聞けば良いのかわからないという状況です。この点、教科書は、消えません。動かないので、何度でも読むことができます。もちろん、皆さんはもうわからないことばの調べ方はわかっているのです。ことばを調べながら読めば大分わかるようになるでしょう。それでもわからないことは質問すれば良いのです。教科書の読み方については、皆さんそれなりの工夫をしていることでしょう。昔からの方法としては、色つきのペンなどで重要と思われるところに線を引くものですが、3色ボールペンを使う方法（これもネット検索してみてください）、付箋をつけていく方法、ノートを作る方法など、様々あると思います。このような専門的な教科では専門用語が重要なのはもちろんですが、教科書に書かれている文章は日本語の表現としてよく練られているはずなので、注意深く読みましょう。特に話しことばとは違う点は何か、書きことばの特徴について気をつけてみると、自分が書くことになったときに役立ちます。

(6) 生活の中で

日本語を母語とする皆さんにとって、友だちや家族との会話を日本語（生活言語）でしているだけでは、日本語力を伸ばすには充分でないことにもう気づきましたか。それ以上の日本語を学ぶ材料・素材は身の周りにいくらでもあることは今なら言えますね。これまで漠然と使っていた日本語も、意識することによって確実に身につけていくのです。ことばはコミュニケーションの道具だと言いましたが、コミュニケーションは人間という集団生活をする生き物として生活する以上、どうしても避けて通れません。人と話をするのは苦手だという人もいるでしょう。話すのはいいけれど書くのはちょっと・・・という人もいるでしょう。コミュニケーションは相手に伝えることなので、話すだけではなく、聞くことも書くことも読むことも全てコミュニケーションです。まずは得意な分野から興味を持って日本語に触れましょう。

これから体験する「コミュニケーション能力育成講座」は皆さんにとって非日常的な経験です。役者の養成学校の授業と同じものから、自分でも自覚できるくらい対話能力がついていくはずで、自信がでできます。私たちが主張する日本語コミュニケーション能力とは大学生の場合、日本語力・学力プラス対話力であることがおわかりになれば、夏休みに暑い中、この講座に参加された意義があります。

周囲には情報があふれています。毎日意識して日本語に接し、新聞を読み、辞書にさわる、これだけでも皆さんの日本語力は確実に伸びていきます。そして、社会人となる頃には、確実に社会人となるための基礎力が付いていることでしょう。

ことばを増やし使えるようになるためには、こつこつ、まめな努力が不可欠です。ものぐさにならないこと、何でも興味を持つこと、比較し・分析する力を養うことが近道です。今日からでも始めてみましょう。

(小野博・馬場眞知子)

10.08.29JADE 研究会での配布資料